



'To acknowledge the duty that accompanies every right'
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2015年5月No.396

Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2014~2015)	クラブ役員 Officers
センテナルクラブ会長 : 『多くの扉を開き感動を共に』 国際会長 : 『言葉より行動を』 アジア地域会長 : 『未来を始めよう、今すぐに』 西日本区理事 : 『響き合い、共に歩む』 中西部部長 : 『YMCA・ワイズ共に若者、社会に光を』	会 長 : 芝田 光雄 副会長/書記 : 何 早林 ドライバー : 松浦 孝次 会 計 : 大村 肇 メネット会長 : 坂本 千春 Y連絡職員 : 池田 聡美

Biblical Message of May

あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、
 いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。

(マルコによる福音書 10章 43-44)

にっぽん縦断こころ旅

大村 肇

4月例会の卓話者のシャンさんが、鹿児島から北海道まで自転車
 で旅をしたいとっておられました。NHK・BSで若いころ「やん
 ちゃ」だった俳優・火野正平が自転車（チャリオくん）に乗って日
 本全国を旅する番組の話です。2011年4月から春と秋、年間で約
 100日、4年間続いている番組です。視聴者からの手紙で「人生の
 忘れられない風景」「大切な人との出会いの場所」「ずっと残したい
 故郷の景色」など手紙に書かれたエピソードを元に「こころの風景」
 を訪ねる番組です。たくさんの人との出会い、上り坂にあえぎ、下
 り坂に笑う、雨の日もカッパをきて走る、ぶっつけ本番の旅で、一
 日の旅の終わりがこころの風景になります。火曜日から金曜日かけ
 て朝と晩に放送があり、毎回、ビデオに録画して空いた時間に家内
 とみえています。なんでもない風景ですが、印象に残った場所に、私
 は、自転車ではなく、家内と車でいきますが、その場所で、やはり
 この番組を見た方と知り合ったりします。さて、私の「こころの風
 景」ですが、先週三重県を火野正平が旅した伊勢志摩にあります、
 英虞湾を望む横山展望台、この場所での夕日は、最高です。学生時
 代、夏の間、志摩で野外活動をしていた時に見た景色でその場所を
 訪ねていました。まだまだ日本には、すばらしい場所があります。
 是非、皆さんも「こころの風景」を訪ねてみては。

(次号は藤原正巳さんです)

May Club Meeting

『LT (Leadership Training)』

5月第1例会

- 日 時：2015年5月20日(水) 18:45~20:45
 場 所：ホテルグランヴィア大阪
 司 会：中村 隆幸 君
- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 開会 | 芝田 光雄 会長 |
| 2. ワイズソング | 一同 |
| 3. 聖句朗読 | 山田 孝彦 君 |
| 4. ゲスト・ビジター紹介 | 芝田 光雄 会長 |
| 5. 今月の強調月間 | 中村 隆幸 君 |
| 6. 晩餐 | 一同 |
| 7. 卓話「東南アジアのボランティア医療活動の経験」 | 東大阪市立総合病院外科参事部長 遠藤 俊治さん |
| 8. 連絡・報告・ニュース | 各メンバーから |
| 9. 誕生祝い・ニコニコ献金 | 一同 |
| 10. 閉会 | 芝田 光雄 会長 |

お誕生日：

5月＝隅田メン

※プレゼントは、巻頭言の執筆者の大村肇メンがご用意ください。

例会担当：第3班 =石津、岡本、谷川、隅田、松浦、三浦の各メン

5月第2例会

日時：2015年5月27日(水) 18:30~20:30

場所：土佐堀YMCA会館4階

【クラブ統計 Statistics】

4月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 20名	メ ン	15名	9名	4月 100g	
例会出席 14名	メネット	6名	0名	現 金 0円	4月： 14,350円
うちメーカー	ビジター	0名	0名	累 計	ファンド 0円
0名	ゲ ス ト	1名	0名	切 手 6,434g	累 計： 144,470円
出席率 75%	合 計	22名	9名	現 金 0円	ファンド累計 9,000円

これは、イエスが弟子達に語った言葉ですが、我々ワイズの世界にも語りかけられているとも受け取ること出来ます。

仕え合い、そして僕（しもべ）として働く者の集まりでありたいと思います。

聖句選/コメント：山田 孝彦
(次号は松浦 孝次さんです)

4 月第 1 例会報告

と き：4 月 15 日（水）18：45～20：30

と ころ：ホテルグランヴィア大阪

雨が続き桜も散る、まだ寒さが残るなか、4 月例会を開催しました。三浦メンが司会、強調月間の説明後、晚餐に移り、ゲストスピーカーはシャン・ワンドゥラガルさんが谷川メネットから紹介されました＝写真。シャンさんは大阪女学院大学などで講師を勤め、今回「日本での 25 年間を振り返って」と題し、日本に何故長く滞在することになったのかを話してくれました。シャンさんはスリランカの両親をもつスリランカ生まれで、家族とともに 1969 年に英国に移住。中・高等学校教育を受けた後、1990 年、福岡 YMCA で英語を教えるために来日しました。この 25 年間で三度帰国したかったが、不思議な力で日本にとどまることになったとのこと。自分にとって、スリランカは母、英国は父、日本は「心の友」。大きなきっかけは、1995 年、神戸にいる時に起こった阪神・淡路大震災。なんとか災害から逃れたその時、たまたま手にとった聖書の詩篇 60 章の 1、2 編「神よ、あなたは私たちを拒み、私たちを破り、私たちから顔を背けられました。あなたは地を揺るがせ、それを引き裂かれました。その裂け目を癒してください。地がぐらついているのです」という箇所が目に入り込んできたそうです。さらに 1998 年、大阪女学院大学の面接を受けた時、大学の門の掲げられた「神を恐れることは知恵の始め」という聖書の好きな一節が目に入りました。そういった体験が彼女を日本に永住することを決心させたようです。今、シャンさんは今も新しい日本を発見し、見たいこと、知りたいことがいっぱいあるそうです。彼女の人生経験からくるスピリチュアルなメッセージに、私たちも深く心をゆり動かされました。

(中村 茂高)



前向きに人生を生きるシャンさんに乾杯！

≡≡≡ Club Activities (April, 2015) ≡≡≡

On April 15, our club's April meeting was held at Hotel Granvia Osaka with a total of 22 Y's men, Y's menettes and a Y's ling in attendance.

The highlight of the meeting was a speech made by Ms. Chan Wanduragal, a lecturer of Osaka Jogakuin University, also Konan University in Osaka and nearby. Titled "My 25 years' romance with Japan," she told us how she had carried a variety of her life in Japan led by God, especially at the turning points of her life.

Born in Sri Lanka, she moved to the UK with her family in 1969. After receiving higher education there, she came to Japan at first in 1990 for teaching English at Fukuoka YMCA. This decision was influenced by her mother, who wanted to come to Japan. She wanted to go back to the UK three times during her 25 years' life in Japan but each time she was led to stay in Japan by **some magic powers**.

This may be a secret of her longer living in Japan. She had her life changing experience while living in Kobe in 1995 when it was hit by the Great Hanshin Earthquake.

She could narrowly escaped from the disaster. On that morning she happened to open the Bible for the day's reading - **Psalm 60-1.2**: "You have rejected us, God, and burst upon us; you have been angry - now restore us! You have shaken the land and torn it open; mend its fractures, for it is quaking."

Her another life changing experience came in 1998, when she went to the Osaka Jogakuin University to have an interview. At the entrance arch of the university, she found her most favorite biblical message; "**The fear of the Lord is the beginning of wisdom**," which made her decide to stay rather than leaving this country. What she told us was like spiritual messages came from her life experiences and we are deeply moved with much interest.

Now she loves people, culture, food, art and craft, way of life and so many things in this country. At the women's soccer final match of Japan vs. USA in the London Olympic Game, she supported the Japanese team strongly, cheering and waving Japanese National flag among US supporters.

Yen 14,300 was collected for the club's smiling fund.

谷川 寛

先日の BS TV でアフリカのマサイ族の男性と結婚した日本人の女性の話を放映していました。そのマサイ族が多く居住している東アフリカ・タンザニアの首都ダレッサラム (Daressalaam) から来日した一行20名の授業を担当しました。現在のタンザニア政府の大統領府直属のお役人で、同国のエリート集団です。

タンザニアは東アフリカのケニアの南に位置する大きな国です。しかし、開発途上にあり、人口の80%が農業に従事しています。同国の北東部に位置するキリマンジャロ (Kilimanjaro) はアフリカ大陸の最高峰で、麓では珈琲、紅茶、バナナを栽培しています。お土産に CHAI BORA というブランド紅茶をいただきました。また、最高峰の麓には野生動物の生息する国立公園が広がっています。



未来への道を
その手で



ケニアやウガンダ、タンザニアなどの東アフリカは域内の経済統合が進み、1億人を超える人口規模の成長市場として有望視されています。最近、貿易規模が急拡大し、港湾や交通、都市のインフラ整備を迫られています。EU や中国からのインフラ関連投資が進んでいますが、日本からの直接投資は遅れています。日本企業は地政学リスクを懸念して足踏みしている模様です。一行から

も、日本はトヨタの Landcruiser などの完成品の輸出には熱心だが、同国への製造業の投資はなぜないのか、という質問を受けました。大きな港をもつタンザニアは将来、東アフリカの国々の流通のハブになると期待されています。日本政府は、最近、東アフリカへの物流拠点などのインフラ整備への円借入を決めました。今回の一行は、「日本の地方自治」を研修するのが主目的で来日。大阪府茨木市の市役所で数日間研修を受け、そのあと、九州に移り日本の農業生産現場を訪問します。ご存じタンザニアは野生動物の宝庫です。一行はお別れの際に、私に近い将来アフリカの“サファリ”に来る機会があれば、是非連絡して欲しい、と言っていました。



タンザニア政府の大統領府直属の役人の一行

4月第2例会報告

と き：4月22日(水) 18:30~19:30

ところ：大阪 YMCA 会館4階

出席者：石津、大村、岡本、芝田、中村隆、藤原、松浦、三浦、山田の各メン

報告/審議事項

- ① 5月卓話者：遠藤 俊治さん
履歴 1996年3月大阪大学医学部卒業。同大学第一外科研修医。その後、日生病院、大阪労災病院、国立病院機構呉医療センターを経て、現在、東大阪市立総合病院外科参事部長
- ② 6月例会卓話者：中川徹太郎氏 (アイシン精機)
テーマ「特許とボランティア」
- ③ 8月西クラブとの合同例会
・開催日時：8月23日(日) 12時30分受付開始。13時開会、15時閉会。会費4,000円。会場の広さの都合で定員を80名。
- ④ キックオフミーティング
・開催日時：5月31日(日) 14時~19時
・開催場所：山西福祉記念会館
- ⑤ アジア大会参加者歓迎会 (アジア大会終了翌日)
・開催日時：8月3日(月) 17時30分~19時30分
・開催場所：京都がんこ二条苑
- ⑥ 本年度奈良傳賞について
西日本区より正式に通知あり、山田孝彦メンの受賞が確定。
- ⑦ 新保メンの退会申し出の件
メールで連絡があったが、西日本区所定のフォームにて、西日本区宛て報告の必要があるため、文書による正式の退会届を芝田会長宛て提出いただくことになる。

BF 報告

中村	茂高ワイズメン	90g
山田	孝彦ワイズメン	10g
	合計	100g

中村 隆幸



ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

《会員、メネットからのメッセージ》

OMs. Chan 有難うございました。前を向いているエネルギーを沢山感じました。人が学ぶのには期限はないといいますが、本当にその通りだと思います。何歳になっても学ぶ気持ちは持ちたいものです。
(池田 聡美)

○シャンさんの日本での25年間、興味深く聞くことができました。人生の中での色々な出会いが大切だと思いました。
(大村 肇)

○莉玖が保育園に入園しました。日々の成長が楽しみです。
(岡本 剛介)

○先日大阪市内から豊中市へ引っ越し致しました。段ボールをかたづける毎日で、これからは本当に必要なものだけ買おうと決めました。
(岡本 麗香)

○多くのメンバーの方々、父の告別式へのご参列に感謝します。また暖かいねぎらいにも感謝します。
(坂本 哲朗)

○月に1回“りく”ちゃん の顔が見れるのが大変嬉しいです。
(坂本 千春)

○シャンさん、日本での25年間の生きざまをお話頂き、有難うございます。大阪のおばちゃん目線で、今後も“お気張りや”す”！分かりやすい英語の発音で、よいヒアリング訓練ができました。
(芝田 光雄)

○Chanさんの日本滞在の印象がからくる素晴らしい数々のお話を興味深く聞きました。
(谷川有美子)

○楽しい話有難う。私ももっと色々な経験をしたいと思います。
(中村 隆幸)

○シャンさん、日本人以上に「日本」を経験されましたね。どうぞこれからの日本での生活も幸せでありますように。
(中村 幸枝)

○「神様の啓示」がシャンさんを日本に導いたようで、不思議な偶然を感じます。日頃の素朴なキリスト教についての疑問も分かりやすく解いて頂き、感謝です。
(藤原 正巳)

○この4月で私も日本に来て「25年」になりました。自分のことも思い出しながらお話を聞きました。
(何 早林)

○Chanさんの来日されてからの足跡をお聞きし、一つのドラマと感じ入りました。忍耐力、インテリジェンス、そして信仰がChanを支えたのでしょね。
(松浦 孝次)

○シャンさんのお話、大変興味深く聞かせて頂きました。“神を畏れることは知恵のはじめ”、私の叔母も大阪女学院を卒業し、楽しい学生生活の話をよく聞きました。
(松浦 孝次)

○シャン・ワンドゥラガラさんの日本体験談、非常に興味深く拝聴致しました。

・“春灯に 宵より集いて スリランカ” (三浦 直之)

○暖かな風、温和な季節の恵まれ、機嫌よくランニングやウォーキングを楽しむ日々を送っています。感謝！
(山田 孝彦)

○スリランカ生まれ、英国で教育を受け、来日し25年たったパーソナル・ヒストリー。神戸・淡路大震災に遭い、大阪女学院での教育体験、好奇心旺盛、向学心に燃えた生きざまに感心しました。
(山中 秀男)

○芝田様、いつもウクレレのご指導有難う存じます。
(山中ちあき)

☆第265回早天祈祷会

日時： 5月15日(金) 7:30~8:30

説教： 竹中 豊明さん(北YMCAスタッフ)

場所： 大阪YMCA会館 10階 チャペル

☆創立記念礼拝

日時： 6月6日(土) 13:00~13:45

場所： 大阪YMCA会館 10階チャペル

奨励： 日本キリスト教団 天満教会 春名康範牧師

☆第2期 チェンジ・エージェント

チェンジ・エージェントとは、「地球市民」としての知識と経験を深め、海外のユースと共に、社会の課題に取り組むYMCA運動の主体としての働きを担う若き青年たちです。

現在日本には、9名のチェンジ・エージェントがおり、この度その中の1名に今春国際学科(IHS)を卒業した生徒が選ばれました！

あたたかい日差しが穏やかに降り注いでいた日、ある表コミ新入生に「良い天気だね～」と声をかけると、「自分には眩しすぎます」と返してくれました。

その後、ある2年生に同じ声かけをすると、「ほんまやな～。授業抜け出して外に遊びに行きたいわ～！」と返してくれました。

1年間の生徒たちの心の変化に嬉しくなり、そして新入生の気持ちに今年度も寄り添い続けることができることに感謝する日々です。
(池田 聡美)

後記

メルマガの原稿を書き終えたタイミングで、4月29日安倍首相が米議会で戦後70年の談話をしました。谷川さんから、以前「Hawaii Convocation」で、又アヌクラブでなくOahu clubで、ハワイ出身の二、三世だけで編成された第100大隊にかつて所属していたTsukayamaさんの家にホームステイをし、大戦の話をうかがったというメールをいただきました。また、福永嘉彦さんから藤原さんを通じて、「過ぎしハワイ時代のこともを思い合わせ、感慨深いものに耽りました」とのメールを。藤原さんからは安倍演説と対比し「歴史の流れを感じることしきり」という言葉をいただきました。戦争が双方にとって、非常に傷跡の深いものかを、久しぶりにパールハーバーに行き、痛切に感じました。

S.N